

7 番（小川義昭君）

ぜひ今御答弁があったように、この財務書類の中で特に行政コスト計算書というのが非常に重要性を示していると思うのです。これはぜひ公共施設の施設の用途別、それから施設ごと、そういったものを明確に作成していただいて、今おっしゃいましたようにそれをただ単に作成するのではなく、やはり民間企業的な発想によるコスト意識というものに対して非常に寄与するような、そういった財務書類作成をどうかひとつよろしく願いいたします。

それでは、7番目の質問は、政策的観点からの検証として公共施設見直し方針と都市計画マスタープランとの整合性についてであります。

平成21年12月定例会において、私はコンパクトシティの構築について商業だけではなく、医療、福祉、文化、居住の利便性を含む多様な都市機能がコンパクトに集積した安心安全で、歩いて暮らせる生活空間を実現し、市の投資効果にも沿うコンパクトシティを構築すべきだと質問いたしました。当時の・市長は、「都市計画マスタープラン策定作業の中で議論し、その意見などをもとに全体構想・地域別構想の案を策定した」と明言されました。

白山市総合計画において本市の将来都市像は、「豊かな自然と共生する自立と循環の都市～白山から日本海まで、交流、そして協働による活力あるまちづくり」とうたわれています。まちづくりは人づくりとする観点のもと、地域でさまざまな活動をする人々の力や交流、連携、そして協働により生み出された地域資源など人・もの・経済が循環する活力に満ちたまちの創造と過疎の解消に力を注ぎますと、白山市総合計画に定められております。

一方、白山市都市計画マスタープランは、この白山市総合計画に基づき、土地利用や都市施設のあり方などに関する基本方針を定め、より詳細かつ具体的なまちづくりの方向性を示すことを目的に、白山市の行政区域全体を対象として策定されております。

マスタープランにも基本方針として、人をつくり、人に優しいまちづくりが掲げられており、世代を超えて楽しむことができる環境づくりに努めます、どの地域に住んでも、市民が生きがいと誇りを持って安心して暮らせるように、保健福祉施設などの充実に努め、生涯にわたる心身の健康づくりと自立生活の支援を推進しますとしております。

このような中で地域の人づくり、健康づくり、安心して暮らせる環境づくりに強く必要とされ、愛用されてきた公共施設が拙速に見

直しが進んでいるように見受けられるのであります。公共施設見直し方針は、都市計画マスタープランとの整合性が不可欠であります。市長の見解をお伺いいたします。